

No	20												
指標名	大腿骨地域連携パスの使用率												
定義	<p>(分子)地域連携診療計画管理料が算定された症例数</p> <p>(分母)大腿骨頸部骨折に関する手術を実施した退院症例数</p>												
結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>当院 (%)</th> <th>全国中央値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015年度</td> <td>54.0%</td> <td>29.9%</td> </tr> <tr> <td>2016年度</td> <td>49.2%</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>41.2%</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(当院)2015年度、2016年度、2017年度における当院のデータ  (全国)2015年度、2016年度、2017年度に実施した病院の中央値 (2018/04/25 時点  ※他院との詳細な比較につきましては「<a href="#">全国自治体病院協議会 医療の質の評価・公表等推進事業</a>」のページをご参照ください。</p>	年度	当院 (%)	全国中央値 (%)	2015年度	54.0%	29.9%	2016年度	49.2%	1.2%	2017年度	41.2%	0.0%
年度	当院 (%)	全国中央値 (%)											
2015年度	54.0%	29.9%											
2016年度	49.2%	1.2%											
2017年度	41.2%	0.0%											
コメント (解説)	<p>大腿骨の骨折では、早期のリハビリテーションが必要となります。  リハビリは専門病院に転院して行われることが多く、手術担当病院とリハビリ受け入れ病院が、あらかじめ治療計画を共有することが求められます。  これを地域連携パスといいます。  一般に、手術からリハビリまでを一貫して行う病院では、地域連携パスの使用率が0となることもあります。  地域連携を積極的に行っている当院の指標値が全国中央値を上回っているのは、当然かもしれませんが、急性期病院である当院の連携パス使用率はさらなる向上が望まれます。</p>												